

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------|---|--------------|
| ○事業所名 | 児童デイサービス響 | | |
| ○保護者評価実施期間 | R6年 9月 1日 | | ～ R6年 12月 1日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○従業者評価実施期間 | R6年 9月 1日 | | ～ R6年 9月 30日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R6年 12月 9日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 流動的なプログラム | 同じような活動が続かないよう工夫している | プログラムの専門性をより高めていく |
| 2 | 広い活動スペースの確保 | 物件の広さを活かし、 身体を動かせるスペース・座って過ごすスペースの 両方を広く設けている | |
| 3 | 緊急時マニュアルの周知 | 災害発生時の具体的な動きをマニュアル化し、 保護者様にも周知している | 保護者様が迎えに来られない場合の対応を 大阪市に相談しているが、具体的な方針は まだ定まっていない |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|-------------------------------------|---|
| 1 | 保護者の交流の機会の少なさ | コロナ禍をきっかけに2020年から途絶えてしまった | 令和7年より徐々に再開予定 |
| 2 | 障害のない子どもとの交流の機会の少なさ | トラブル回避のため、事業所外の子どもとの 接触に慎重になっている | |
| 3 | バリアフリー化 | トイレが狭く、車いすで進入できない | トイレの拡張は難しいが、 段差の解消や握力の弱さをカバーする グッズなどを活用する |